

<b>1</b>	<b>1 先行的地域づくり団体 活動報告</b>	<b>2</b>
	おとぎの社／内川の自然と未来をつくる会／民有「歴史文化」資産の保存を考える会／能美の里山ファン倶楽部	
<b>2</b>	<b>2 地域づくり団体全国研修交流会</b>	<b>4</b>
	地域づくり団体全国研修交流会・愛媛大会に参加して	
<b>3</b>	<b>3 いしかわ地域づくり塾の報告</b>	<b>5</b>
	「地域づくりのあらたなリーダー像」／発酵食品文化継承塾／NPO 団体・指定管理者受託団体リーダー養成講座	
<b>4</b>	<b>4 平成 20 年度地域づくり関連表彰</b>	<b>6</b>
	地域づくり表彰（国土交通省）／過疎地域自立活性化優良事例表彰（総務省）／地域づくり総務大臣表彰（総務省）	
<b>5</b>	<b>5 団体紹介</b>	<b>8</b>
	はくいの郷土史を学習する会	
<b>6</b>	<b>6 奥能登ウェルカムプロジェクトの取り組み</b>	<b>9</b>
	奥能登の体験観光を担う人づくり	
<b>7</b>	<b>7 地域課題解決にむけた大学ゼミの取り組み／学生サークルによる地域貢献活動の推進</b>	<b>10</b>
	地域課題研究ゼミナール支援事業／地域貢献型学生推進プロジェクト事業	
<b>8</b>	<b>8 NEWS &amp; INFORMATION</b>	<b>12</b>
	イベント／募集	

# いしかわ地域づくり 往来

[www.pref.ishikawa.jp/shinkou/dukurikyuu/index.htm/](http://www.pref.ishikawa.jp/shinkou/dukurikyuu/index.htm/)

発行日／平成21年3月31日  
 発行／石川地域づくり協会  
 発行者／石川地域づくり協会事務局 事務局長 森田 美恵子  
 〒920-8580 石川県金沢市鞍月1丁目1番地  
 石川県企画振興部地域振興課内  
 TEL.076-225-1312 FAX.076-225-1328

# vol.5

I s h i k a w a L o c a l R e v i t a l i z a t i o n A l l R i g h t



# 1-a 先行的地域づくり団体 活動報告

石川地域づくり協会では、活力と魅力ある地域づくりの推進を図ることを目的に、平成20年度、協会の加盟団体が実施する先進的な地域づくりの取り組みに対して支援を行いました。ここでは、事業の採択を受けた4団体の取り組みをご紹介します。

## NPO 法人 おとぎの杜 (金沢市)

### パンクは自分で直し、放置自転車をなくそう

環境にやさしい乗り物＝自転車はサポートシステムが不十分なために、ちょっとした故障でも修理せず、放置・放棄する風潮があります。それが環境破壊の一要因とさえなっています。「資源は有限、環境保護は身近から」を合言葉に、多少の故障なら修理する「もったいない」運動を提唱・実践しています。

この間、① 自転車を最も利用する学生を重点対象として金沢西高校、尾山台高校各三回、遊学館高校、金大北暎寮で各一回、② 県内最大の駐輪場金沢駅周辺では月一回、③ 資源ごみ減少をめざす三浦町会では公民館前で二回、パンク直し講座を行い、金沢駅もてなしドームでは、環境イベント“笑顔でエコ・どんどこドン!”の最前列に陣取りアピールしてきました。

無料点検では、緊急停車のブレーキ、無灯火防止のランプ、整列駐輪のスタンドなどの補修を行い、安全運転とマナーの自覚を促しています。高校生は徐々に関心を示しており、今後は新入生を対象にパンク直し講習の実をあげていきます。

野球部員も駆けつけ、女子高生の自転車に空気を



## 内川の自然と未来をつくる会 (金沢市)

### 内川鎮守の森ギャラリー

内川地区の内外の人達に豊かな自然と本物の作品や演奏に触れてもらい、地区の魅力を再発見し、自分たちの住むところに自信と誇りを持てるようにしたいとの思いから、地区在住の作家とその仲間たちに呼びかけて始めた『内川鎮守の森ギャラリー』も今年で16回目となり、10月31日から4日間の開催では、天候にも恵まれ、多くの人に来場いただきました。

神社や古民家、竹林を会場に、絵画、彫刻、陶芸、ステンドグラス、織りや野外ワークなど40名以上の作家の作品展をメインに、竹林の中での演奏やパフォーマンス、地元小学校でのモンゴルの琴演奏と踊りの披露などを行いました。さらに、地域住民の交流と文化に親しみ理解を深めてもらうきっかけづくりに、子供からお年寄りまで参加してのワークショップも開催しました。

このような活動には、色々な形で多くの地域住民が関わっており、年々、文化への理解度の深まりや地域コミュニティの活性化につながっていると感じています。

モンゴル琴のコンサート風景



## 民有「歴史文化」資産の 保存活用を考える会(能登町)

### 松波城と松波畠山氏の町との関わりを伝える

能登町では「働き場所がない」等の理由で人口流出が相次いでいます。(若年者比率 50 年で半減) 一方、北京オリンピックの金メダリストのふるさとで、地元の子供達が「僕達は誇りに思っています」と言っていたのが印象的で、子供達には心の拠り所となるものが必要であると痛感しました。

そこで、彼らに町の誇りとなるものを得てもらうことができればと考え、以下の事業を行いました。

- ① 能登町松波には 1474～1577 年の間、存在した松波城の史跡がある。その城とそこの主、松波畠山氏のルーツと顛末について資料をまとめ、CD化する。
- ② 町内の中学生を対象に作成した CD を配布するとともに、出張講座、アンケート調査も行い、子供達の現状認識を把握、次年度の参考とする。

地域の歴史文化を興味の持ち易い形で全中学生から始めて全町民へと浸透させることにより、地域愛を育もうというものです。学校当局の反応は協力的で、事業の効果を期待しています。

定例会（月に1回程度）の様子



## 能美の里山ファン倶楽部 (能美市)

### 能美ほっこりまつり

今年で2回目となった『能美ほっこりまつり』とは、「地域にあるものを探し、あるものを活かす」取り組みから始まった、まちむら交流イベントです。会場となった仏大寺町は能美市内でも一番小さな集落で、「平成の名水百選」に選ばれた遣水<sup>やりみず</sup>観音霊水の里でもあります。

本イベントは10月18、19日の両日行われ、1日目は観音山でのガイドハイク、集落の中央に位置する休耕田を利用した螢灯会<sup>けいとうえ</sup>(キャンドルナイト)を行いました。暗闇に照らされた灯が水田に反射し、見事に休耕田を蘇らせていました。

2日目は、地域の素材を活かした吊るし柿づくりや薪割り体験、キノコの植菌など里山の生活文化を体験し、郷土料理などを味わいながら里山での時間を「ほっこり」と体感して頂きました。

また、この企画・運営には当倶楽部のみではなく、地域住民、関係団体等と協働することにより、地域住民に「地元」に対する大きな自信と気づきを萌芽させました。

炭グループ「炭一会」の炭を利用して行った古代たたら製鉄



# 2

## 地域づくり団体全国研修交流会

平成20年11月14日～15日にかけて、第26回地域づくり団体全国研修交流会が愛媛県で開催され、石川地域づくり協会加入団体からも5名が参加しました。  
その研修交流会の様子を、「大呑郷土食研究会」濱 和代さんに紹介していただきます。

## 地域づくり団体全国研修交流会・愛媛大会に参加して

大呑郷土食研究会 濱 和代

能登県境の過疎集落で活動する私は、「限界集落の現場からふるさと再生と地域の元気づくりを考える」分科会が目にとまり、迷わず申込みました。

宇和島市での全体会は、旧双海町で「夕日のまちづくり」に携われた観光カリスマで大会実行委員長若松進一さんのお話と、今治市「焼き鳥日本一の街」仕掛人との掛け合い、会場とのワークショップで構成されました。

分科会では山奥組の紹介。過疎と荒廃が進む農村地域の持続と豊かなふるさとづくり、地域の元気づくりを目指して、平成合併を機に西伊予市旧野村町有志で設立された『むらの新資源研究会・山奥組』は、里山保全の森作り、植生調査、ふるさとの巨樹案内マップづくり、空き家の活用、地域産品ふるさと便の発送などに取り組んでおられ、素晴らしい活動と思いました。

翌日、再生・保全されている里山を見学しました。見事に手入れされた素晴らしい森で、歩いていても

とても気持ちよく、予定時刻を大幅超過してしまいました。

二回目の討議では、地元参加者の方々が熱心に発言され、自分たちの地域は自分たちで守っていくべきだと力強いお話があり、思わず拍手が起こってホッとしました。

私たちが以前主催させて頂いた能登での分科会は、全国から参加された方と数名ですが今でも交流が続いています。自宅に戻ると、夜なべ談義で語り合った山奥組の方からミカン箱が届いていてびっくり。この方との交流が続き、何時の日か山奥組の方々がお越しになって、能登の地域づくりを見ていただければ、自信をつけられたり、参考になることもあると思います。

自然豊かな地域では、気持ちが通い合う友人・仲間としての交流が基本になると改めて感じました。私たちの活動も、この原点を忘れずに地道に歩きたいと思っています。

11月14日 分科会討議結果



11月15日 分科会二日目最勝討議風景



## 3-a いしかわ地域づくり塾の報告

毎年実施している「いしかわ地域づくり塾」ですが、平成 20 年度は、地域づくり団体が主体となって塾を企画・実施しました。これまでの塾とは一味違った塾の様子をお伝えします。

### 「地域づくりのあらたなリーダー像」(NPO法人おとぎの杜)

NPO 法人 i-ねっと取材チーム

3 月には珍しい快晴の日曜午後。40 以上の団体から 52 名が参加し、会場はすし詰めとなりました。

京都 YWCA の齋藤氏がコーディネーター・ファシリテーターの役割について分かりやすく説明した後、実践例として、さわやかないね金沢の中野氏が、「居酒屋」の他力本願的な運営法を紹介し、いよいよ本番です。KJ 法などを取り入れての 7 つのグループディスカッションへと続く全編 4 時間の長丁場です。

「これからの地域づくりリーダー像は会長や委員長ではなく、権限を持たないファシリテーターにある」ことを、実体験を通して理解してもらおうという主催者の意図の的確さは「時間を感じさせず楽しかった」という参加者の声からも伝わってきました。

ファシリテーター（調整役）を意識する人は、ワーク後半のまとめで大奮闘です。才能ある人物が牽引するかつての地域リーダー像ではなく、メンバー同士が人のネットワークを広げ課題解決を図る、新しい人材育成の発芽に溢れる会となりました。

※ KJ 法…データをカードに記述し、グループにまとめていく方法

グループワークの後、代表して発表する参加者



### 発酵食品文化継承塾 (NPO 法人 竹の浦夢創塾)

能美の里山ファン倶楽部 / 由田徹

竹の浦夢創塾では、発酵食品文化継承塾として地域づくり塾が行われました。人づくりは地域が担ってきたと言う思いもあり、ねらいは地域文化継承の復活です。新たに「発酵食品文化の探求プロジェクトチーム」を立ち上げ取り組みが行われました。発酵食品というテーマの難しそうなイメージを取り払い、専門家を招いての発酵食文化に関する講演会等のプログラムと、親子が気軽に参加できる体験型のプログラムを組み合わせ計画が進められました。「発酵食文化とそれを伝承していくことの大切さを、特別なものとして伝えようとしてもそう簡単には伝わらないが、より多くの親子が気軽に参加できるプログラムをつくりながら、その親世代の体験を促し、より自然に伝えたいという思いがある。」と柿谷昭一郎事務局長はお話されていました。核家族化で親世代がその親から受け継ぐことの難しくなった文化継承の仕組みを、竹の浦館という場を通し実践し、失われた仕組みを新しいアイデアで再生するという、とても興味深い取り組みだと感じました。

3月1日の親子味噌づくり体験では、おばあちゃん世代を代表して北出弘子さんが、子の世代と孫の世代に味噌づくりを教えました



## NPO 団体・指定管理者 受託団体リーダー養成講座 (NPO 法人わくわくネット・はくい)

NPO 法人石川県ダートトライアル振興会スリー R 水本協子

NPO 法人と指定管理者受託団体各 5 団体が参加する中、講座は、田中尚輝氏（NPO 法人 NPO 事業サポートセンター常務理事）と大竹弘和氏（神奈川大学人間科学部教授・総合システム研究所代表）によるミニ講演から始まり、その後グループ講義へと移っていきました。

NPO 団体グループでは、団体が抱える問題点からメンバーの本音まで活発に意見交換がなされ、事業計画書づくりでは、ミッション（使命）、3 年間かけて実現させたいこと、実現するために足りないこと・得たいことを整理。多くの団体が悩む資金の確保では、支出からイベント参加費を算出する、ノウハウを活かして収益事業へ転換するなど、講師陣から解決に向けたアドバイスがあり、参加者は新しい運営方法と意識改革の必要性を意識しました。

指定管理者受託団体グループでは、現状の仕組みを変える、自主事業、連携の 3 つのポイントで事業計画書づくりを検討しました。行政や地域との連携強化のほか、リピーター獲得と事業継続には利用者を対象にしたマーケティング調査が重要というアドバイスも大いに参考になったようです。

3 月 20 日 熱い議論が展開されたグループワーク



## 地域づくり表彰 (国土交通省)

全国地域づくり推進協議会会長賞  
横山振興会 (珠洲市)

珠洲市狼煙町横山集落では、耕作放棄地の有効活用による地域おこしを進めるため、1997 年に「横山振興会」を組織し、かつて各家庭で作られていた寄せ豆腐など素朴な味を復活させようと大豆栽培を始めました。当時すでに市内で見かけなくなっていた「大浜大豆」を復活させ、収穫された大豆を昔ながらの製法で「寄せ豆腐」や「つと納豆」に加工し、市内のイベント等に出品してきました。

大豆の風味が濃厚なことから評判も上々で、地元の豆腐店、味噌店だけではなく、金沢や京都、大阪のこだわりをもった豆腐店からの問い合わせも多くなるなど、「幻の大浜大豆」として市内外から認められるようになりました。

どんなに良質の豆でも加工せずに販売するだけでは、地域の活性化につながらないことから、現在は京都の高級豆腐店の指導を受けながら、豆腐づくりの研究を進めています。将来は地域固有の素材を活用した商品として市内外での流通を目指すほか、加工体験も受け入れることにより、これまでの観光スタイルに付加価値を加え、寂れた観光地の再興につなげたい考えです。

大浜大豆の種まきを体験する子どもたち



# 4-b

## 平成 20 年度地域づくり関連表彰

地域づくり関連の表彰については、数多くの表彰が存在し、毎年全国から様々な事例が候補としてあげられています。しかし、表彰を受賞するのは、全国でもごく一部の事例です。そんな状況の中、今年度、国が主催する代表的な 3 つの表彰を、県内の 3 団体が受賞しました。それぞれの受賞団体の取り組みをご紹介します。

### 過疎地域自立活性化 優良事例表彰 (総務省)

#### 総務大臣賞

##### NPO 法人やすらぎの里金蔵学校(輪島市)

金蔵学校は、平成 9 年の旧金蔵小学校の廃校に伴い、平成 12 年 1 月に「あなたが先生、わたしが生徒。わたしが先生、あなたが生徒。」を合言葉に、金蔵の再生と新しい金蔵の創造を目指して発足しました。

金蔵学校では、中世からの五ヶ寺(金蔵寺、慶願寺、正願寺、圓徳寺、正楽寺)の貴重な遺産、棚田の中に農家が点在する懐かしい田舎の風景や自然、伝統文化などを発信するために、金蔵集落マップを作成し、案内板を設置しています。また、金蔵をより知ってもらうために、年表づくりや五ヶ寺のしおりづくりに取り組んでいます。

さらに、金蔵産コシヒカリの発信や日本酒「米蔵金」など特産品の開発、お寺の回廊を活用したオープンカフェ「木の音」の立ち上げ、米や桜のオーナー制度などの活動を行っており、昔ながらの棚田風景を 3 万個の口ウソクで灯す「金蔵万燈会」等のイベント実施により、人口 170 人の地区に年間約 8000 人が訪れています。また、空き家を利用した「金蔵自然文化研究所」の開設による大学との連携等、活動分野は広範囲に及んでいます。

金蔵万燈会



### 地域づくり総務大臣表彰 (総務省)

#### 団体表彰

##### 雪だるま倶楽部(白山市)

過疎化が進展する白峰地区において、活性化に向けて地域の若者が立ち上がり、住民総参加のもとで平成 2 年に開催した「雪だるままつり」が地域おこしのスタートです。

雪だるままつりは、毎年 2 月上旬に開催され、人口約 1,100 人のところ、2,000 個を超える雪だるまが誕生し、地区内はまさに“雪だるま公園”に変身します。「素朴さと手づくり」が評価を得て、年々、来訪客が増加し、今では石川県の冬の風物詩に位置付けられています。このまつりを行うことにより、経済効果はもちろんイメージアップ、地域の協働性や団結力など、生まれた効果は計り知れません。

また、第 2 の地域おこしとして、取り壊しの危機にあった古民家を再生し、平成 19 年から雪だるまカフェを開設しています。カフェは雪だるま倶楽部が独立採算で運営しており、財源はすべて売上金で賄っています。集落の古民家再生とあって、住民の関心も高く、飲食機能ばかりでなく、各分野で県内の大学と連携して行っている調査・体験活動の拠点にもなっています。

住民の愛情がこもった雪だるまがあちこちで見られる



ここでは、県内で積極的に地域づくりに取り組んでいる団体をご紹介します。  
今年度新たに当協会の仲間となった「はくいの郷土史を学習する会」の活動をご覧ください。

## はくいの郷土史を学習する会

ねあがりカライダスコープ 谷口健一

平成 21 年 3 月 8 日、羽咋公民館で行われた「はくいの郷土史を学習する会」の学習会を取材しました。これまでに 27 回開催されており、今回は「やさしい仏像の見方」をテーマに吉野隆久代表が解説。参加者 8 人と問答する形式で進行しました。「仏様にはどんな種類があるのか?」、「菩薩とは?」などの問いかけに、それぞれが活発に答えていました。1 時間半ほどで学習会は終了。後は茶話会に移り、互いに日頃の疑問を解明し合う場となりました。

参加者に「なぜこの会に出てみようと思ったのか」と質問しました。ある男性は「歴史が好きだ。子どもの頃、田んぼから焼き物がごろごろ出てきた。由緒ある所に住む自分のルーツを知りたい」と語り、その他、「観光ボランティアをしているが更に知識を深めたい」や、「子どもに故郷の歴史を伝えたい」、「1 日 1 時間でも本を読んで自分を高めたい」などの答えもあり、自分の住む地をもっと深く知りたいという熱意がどの参加者からも伝わってきました。

はくいの郷土史を学習する会は、平成 19 年 2 月に発足し、羽咋市内 4 か所で学習会を毎月開催するほか、石動山や雨宮古墳群などでの現地研修も実施

しています。会員は 45 名。50 代から 70 代で男女比は半々。地元羽咋の人が多いが、金沢や野々市からの参加者もいるそうです。

学習会が活発な理由として、「参加者と問答形式で進めているため、参加意識が高くなるのだろう」と吉野さんは述べました。その一方で、活動資金については、その都度の参加費 500 円（1 人 1 回）で全てをまかなっているが資料作成等で精一杯であること、そして後継者の育成が急務であること、総会や役員などについての取り決めも必要であること、また行政や NPO、地域の各種団体との協働の推進や、学習会会場の拠点化も考えて行かねばならないことなど、多くの課題があると思いました。そして、「最近では地域の子ども会や老人会などからも学習会開催の声がかかるようになった。これからは参加者の底辺を広げて、羽咋のデータベースの会を目指したい」と吉野さんは結びました。

日常のちょっとした言葉の中にも深い歴史を映し出すこの地の良さを、地域の人たちが積極的に認識していくことは、形だけでない中身の詰まった地域の魅力発信につながるのだろうと感じて帰路に就きました。

学習会の様子



全員で集合写真



代表の吉野隆久さん



# 6

## 奥能登ウェルカムプロジェクトの取り組み

石川県、奥能登2市2町、地域づくり団体、民間事業者等からなる奥能登ウェルカムプロジェクト推進協議会では、今年度から、奥能登の体験観光について本格的に取り組み始めました。今回は、その中でも人材育成の取り組みについてご紹介します。

### 奥能登の体験観光を担う人づくり

奥能登ウェルカムプロジェクト推進協議会

奥能登ウェルカムプロジェクト推進協議会では、これまで、能登弁をはじめとした奥能登の食の魅力の発信や、色彩をテーマに奥能登の原風景を資源とした誘客に取り組んできました。

この他にも、奥能登の地域活性化のテーマとして、豊富な地域資源を活かした体験観光を挙げており、今年度から奥能登感動体験プロジェクトチームを新たに組織し、体験観光の人材育成や体験プログラムの検討などに取り組みました。

1月16日（金）～19日（月）には、国土交通省の体験観光にかかる調査事業を活用した「体験活動指導者リーダー養成講座」が珠洲市で実施され、奥能登各市町から24名が参加しました。

講座では、体験活動指導員としての必要知識に関する講義をはじめ、緊急時の対応の実技演習、さらには講座会場周辺を舞台とした体験学習プログラムをグループの協働で企画立案し、実際に受入を行うまでの一連の活動を行いました。

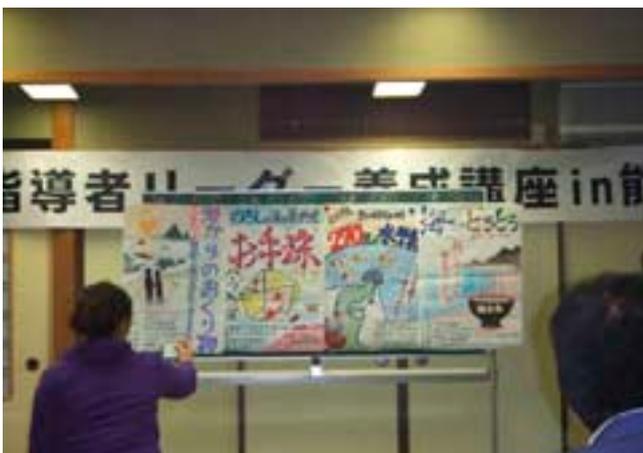
3泊4日の間、徹夜や睡眠時間を削りながら取り組んだ甲斐あって、参加した24名全員が講習会課程を修了し、応急手当（L.S.F.A）認定、体験活動リーダー（CONEリーダー）認定、環境教育指導者認定を受けました。

また、講座の効果は資格取得だけでなく、参加メンバー間での連帯感強化や達成感の共有など、地域ぐるみで体験観光の受入を行うのに必要なネットワークを形成することに繋がりました。

今後、修学旅行等の学習旅行で体験プログラムの組み入れを行う学校が増加することが予想されている中、体験観光の指導者育成は、地域に人を呼び込むための重要な要素になると考えられ、参加者の体験観光の担い手としての活躍がますます期待されます。

来年度も、今年度に築いた人材とネットワークを活かし、奥能登での体験観光の受入体制整備に取り組んでいきます。

各グループで企画立案したプログラム



実際に他のグループを参加者に見立てて受入を行う



# 7-a 地域課題解決にむけた大学ゼミの取り組み

県と大学コンソーシアム石川は、大学と地域が連携する地域づくりを推進するために、「地域課題研究ゼミナール支援事業」を実施しています。これは、県内高等教育機関のゼミナールが地域の課題解決を目指して地域と一体となって取り組み、その解決方を提言するものです。平成20年度は、19ゼミが採択され研究を行いました。今回は、下記の2つのゼミの活動を紹介します。

## 地域課題研究ゼミナール支援事業

### 「知的障害者地域支援システムのあり方についての調査研究」 ～生活の質を高める余暇活動のあり方と支援～

金城大学 松浦教授ゼミ

「保護される存在」から「権利の主体者」へという国際的潮流のなか、知的障害を持つ人達の人生の大半は、いまだ保護の時代を脱せずにいるという現状認識のもと、松浦ゼミでは、白山市において、県内初となる知的障害をもつ本人とその家族及び利用施設従事者の調査を同時に行い、知的障害者の方の余暇活動の在り方、自己実現の支援方法について研究を行いました。

- 「識字教室」「買い物上手と計算教室」の開催や、地域の人たちが参加する生涯学習の場に障害者の参加を可能とする仕組みづくり
- 地域のスポーツ教室への障害者の受け入れ等、障害者スポーツ指導者の育成を図る
- 緩やかな見守り体制の確立など「ひとりで暮らせる」政策の充実

など、3つの提言を行いました。

### 「内灘海岸における風紋再生を通じた地域環境改善に関する研究」

石川工業高等専門学校 村田准教授ゼミ

かつては起伏のある美しい風紋をみることができた内灘海岸では、ゴミ問題や砂丘の荒廃、町民と海岸の関わり方の希薄化等の問題があります。そこで村田ゼミでは、

- 内灘海岸の風紋再生のための竹垣の設置
- 竹垣設置活動改善のためのアンケート調査
- 風紋に対する認知度向上のための小学生風紋再生体験学習「夢教室」の開催

等、内灘町、ボランティア団体、学校機関などと協力し行いました。成果として竹垣により風紋の再生ができたこと、アンケート調査により、活動の改善につながったことがあげられています。来年度の竹垣設置活動には、若い世代の参加が期待できそうだとのことです。

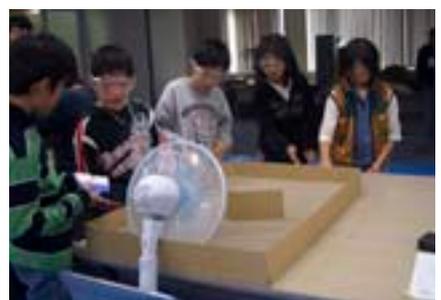
いしかわシティカレッジで開催された成果報告会でプレゼンテーションする松浦ゼミの学生



竹垣づくりを行う村田ゼミの学生



夢教室に参加する小学生



# 7-b 学生サークルによる地域貢献活動の推進

県と大学コンソーシアム石川は、学生サークル等によるボランティア活動を活発化させようという目的で、学生の地域貢献活動を支援しています。平成20年度は、10件実施し、今回は県立大学の取り組みを紹介します。

## 地域貢献型学生プロジェクト推進事業

### 県立大学の学生サークルによる農村の伝統行事参加による地域活性化

今回紹介するのは、石川県立大学の学生サークル「学生援農隊あぐり」（以下、「あぐり」という。）の七尾市での農村伝統行事参加による地域活性化に向けた活動です。

あぐりは、平成17年に結成、県立大学の学生有志16名で構成され、地域農業・農村の活性化に貢献することを目的として、輪島市の千枚田での田植え等、農業活動を中心としたボランティアを行ってきました。

平成20年6月に、七尾市中島町西岸地区の壮年団で結成した「どぼんこ・さるたひこ地域協議会」から、過疎化や少子高齢化による人手不足で存続の危機にさらされている国指定重要無形民俗文化財のお熊甲祭をはじめとする伝統行事への参加とこの文化の継承、次年度以降の交流継続の希望があり、あぐりが引き受けることになりました。

あぐりでは、次年度以降の交流を見据え、今回の目標として、多くの参加者をこの行事に集めること、参加者にまた来たいと思わせることを掲げていました。

そのため、観光地巡りで旅行気分を演出する等の工夫をこらして学生を募集し、7月には豊作祈願の虫送り行事、8月には祭り道具の修理、ドボンコ作り、9月にはお熊甲祭、新宮祭に参加しました。

参加者数は目標に達しなかったものの、参加者か

らは、楽しかったので参加してよかった、地域貢献や活性化に興味を持ったなどの感想があがり、高い満足を得られました。

地域側では、今年の経験をもとに、来年度は祭りの担ぎ手として学生が来る場合の宿泊代や交通費などを国からの補助金と住民からの善意で賄うことにしており、継続した活動にむけて、地域自らが動き出しています。

この春には、活動を牽引してきたあぐりの代表の学生が卒業するため、いかにして後輩に引継ぎ、活動を継続していくかが今後の課題になりますが、学生にとって貴重な経験となりますので後輩と地域のパイプ役になり、地域貢献活動が継続していくことを願っています。

#### 「どぼんこ・さるたひこ地域協議会」 会長 津田晃氏の今回の活動に関するコメント

今回のあぐりの活動は新たな地域資源の発掘等、地域に様々な可能性を示してくれました。また、交流人口拡大に向けた取り組みに向けて勇気を与えてくれました。私たち地域が持つ地域資源をフルに活用し継続的な交流に活かしていきたいと思います。

お熊甲祭



ドボンコ作り



新宮祭



「NEWS & INFORMATION」はあなたの団体のイベント告知や、活動メンバー募集などを掲載するページです。掲載ご希望の団体は事務局までご連絡下さい。

## 花嫁のれん展

参加のお問合せ 0767-53-8424

イベント

幕末から明治時代初期の頃より、加賀藩だけに見られる庶民生活の風習の中に生まれた独自ののれん「花嫁のれん」を、一本杉通りの商家・民家の屋内に120枚以上飾り、語り聞きながら風に揺れるのれんを楽しめます。初日29日午前10時から花嫁道中も行われます。

- 日時 平成21年4月29日から5月10日(母の日)  
10:00～17:00
- 会場 一本杉通り(約50軒の商家・民家の屋内)
- お問合せ 七尾市観光協会(七尾市観光交流課内)  
〒926-8611 石川県七尾市袖が江町イ部25番地  
TEL.0767-53-8424

## 平成21年度 「地域貢献型学生プロジェクト 推進事業」地域活動

テーマ  
募集

参加のお問合せ 076-223-1633

この事業は、学生の社会参加意欲と地域ニーズのマッチングによる、学生等による地域貢献活動の推進を目的としております。そこで、学生サークル等に取り組んでほしい地域活動のテーマを4月末まで募集します。伝統的祭事への担い手、地域イベントの企画、参加など、県内の学生サークルに取り組んでほしい地域活動がありましたら、下記までご応募ください。詳しくは大学コンソーシアムまでお問い合わせください。

- お問合せ 大学コンソーシアム石川事務局  
TEL.076-223-1633 FAX.076-223-1644  
E-mail: info@ucon-i.jp

## noto 色スポット 「のとキリシマツツジ オープンガーデン 2009」

イベント

参加のお問合せ 0768-26-2555

4月下旬～5月中旬にかけ、深紅色の花びらを開かせる「のとキリシマツツジ」。その多くが個人の庭で大切に育てられていますが、花の見ごろの一定期間、個人のお庭を一般に公開するオープンガーデンを実施することとなりました。この機会に是非、燃えるような赤色を目に焼き付けに能登へ訪れてみてください。

- 日時 平成21年4月26日～5月24日  
(開花状況により異なります)
- 会場 輪島市、珠洲市、穴水町、能登町でお庭を公開している個人宅等  
※能登空港や道の駅に、チラシを設置しています
- お問合せ 能登の旅情報センター(能登空港内)  
TEL.0768-26-2555

## 2009 菜の花フェスタinのみ

イベント

参加のお問合せ 0761-52-8005

菜種からの搾油や廃食油からできるバイオディーゼル燃料の紹介などをおこない、環境への意識を高めてもらうイベントです。地球に優しい体験コーナーとして、「菜の花を摘んでみよう」「里山の味を味わおう」「リサイクル工作教室」「菜の花ウォークラリー」をおこないます。

- 日時 平成21年4月26日(日) 10:00～14:00
- 会場 手取川水辺プラザ
- お問合せ 能美市民環境ネットワーク事務局(市環境生活課内)  
TEL 0761-52-8005

## メールマガジンを配信しています

URL <https://consol.neting.jp/mg/cf/>  
※当協会HPからでも登録いただけます。

石川地域づくり協会では、地域づくりに関する各種講座や助成制度など、幅広い情報を、メールマガジンを通じて定期的に配信しています。情報誌では掲載しきれない最新の情報も満載です。既に現在多くの方々に登録いただいておりますが、さらなる登録をお待ちしております!!

登録者  
募集